

第3部 プロフェッショナル・コース



第1章 IFTTT 経由Google着! 温度, 気圧, 湿度を10分おきにウェブにアップ

AI用ビッグデータを自動生成! PICで作るクラウド・ ウェザー・カレンダー

後閑 哲也 Tetsuya Gokan

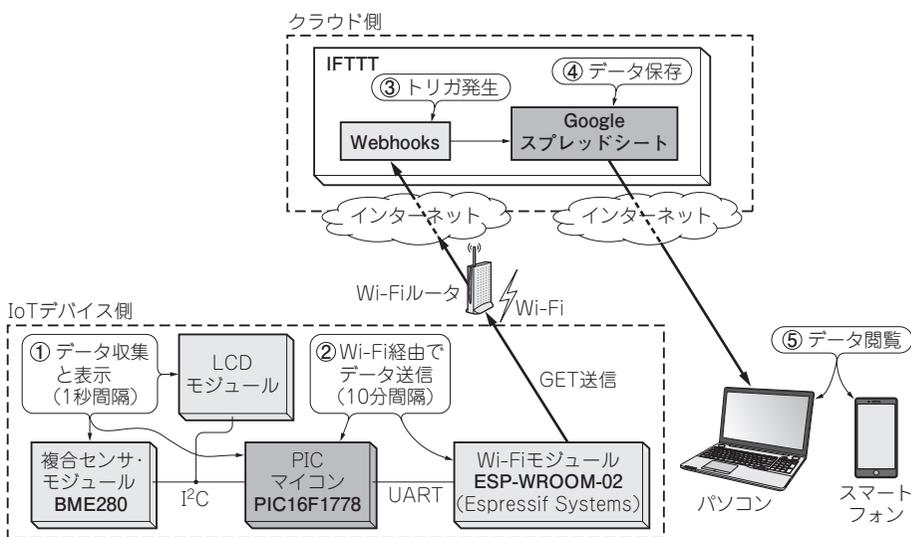


図1 数あるインターネット上のサービス同士を連携させるIFTTT(IFT)を使って温湿度や気圧情報を記録する「クラウド・ウェザー・カレンダー」

IFTTT(IFT)は、クラウド・サービスの1つです。任意のクラウド・サービスを2つを選んで、連携させることができます。

IFTTTには「Webhooks」というサービスが用意されています。ある特定のURLにHTTPリクエストするだけでログインできるので、PICマイコンからでも利用できます。Webhooksと連携動作させるクラウド・サービスは、IFTTTがログインを代行してくれるので、複雑な認証なしに利用できます。Twitterやfacebook, Gmailなど300種類以上のクラウド・サービスがPICマイコンから利用できます。

本章では、PICマイコンからIFTTTのWebhooksを経由して、Googleスプレッドシートに温湿度、気圧のデータを10分おきに送り続けるクラウド・ウェザー・カレンダーを製作します。 〈編集部〉

● GoogleやDropboxを連携

IFTTT(IFT)とは、GmailやTwitter, facebook, Evernote, Weather, Dropboxなど数あるクラウド・サービス同士を連携させることのできるクラウド・サ

ービスです。

IFTTTは「If This Then That.」の略で、あるクラウド・サービス(This)を使ったときに、別のクラウド・サービス(That)を実行させることができます。具体的には次のようにクラウド・サービス同士の連携ができます。

- 雨の天気予報が出る→傘の持参を促すメール送信
- スマートフォンのバッテリー残量低下→ショート・メッセージで通知

本稿では、IFTTTを使ってクラウド・ウェザー・カレンダーを製作します。IFTTTを利用して次のクラウド・サービスを連携させます。

- ① PICマイコンで温度、湿度、気圧のデータを収集
- ② PICマイコンでデータを整形してからIFTTTへ送信
- ③ IFTTTでデータをGoogleスプレッドシートに記録

図1に示すのは、クラウド・ウェザー・カレンダーの構成です。PICマイコンから一定間隔で温度、湿度、気圧のデータを「Webhooks」というクラウド・サービスに送信します。IFTTTでは、Webhooksがデー